

2017年9月28日

平成 29 年度第 1 回 海岸工学委員会議事録

開催日時：平成 29 年 9 月 28 日（木）14:00～17:00

開催場所：主婦会館(スイセン)（東京都千代田区六番町 15）

出席者：岡安委員長，後藤副委員長，田島幹事長，荒木，川崎，重松，高橋，武若，富田，森，渡部（以上，各小委員長），越村，小竹，中山，原田（以上，各副小委員長），有川，太田，小笠原，西畑(片山代理)，加藤，北野，佐々木，瀬戸口，高川，中嶋，松山，山城（以上，委員兼幹事）

資料：

- ・ 平成 29 年度第 1 回海岸工学委員会議事次第（資料 1）
- ・ PowerPoint 資料（資料 2）

審議報告事項：

1. 前回議事録の確認（田島幹事長）

- ・ WEB 公開済の議事録を確認した。

2. 海岸工学委員会予算の概要（田島幹事長）

- ・ 過去数年間の海岸工学委員会の予算収支を確認し，平成 29 年度については例年よりも収入が多く，その有効活用方法について会議後半で議論することとした。

3. 海岸工学論文集第 64 巻発刊準備状況について（森編集小委員長，原田副小委員長）

- ・ 準備作業は森編集小委員長，原田副小委員長，岡安委員長，後藤副委員長，田島幹事長の 5 名で情報共有しながら進めている。

- ・ 原田副委員長は今回で退任

(1) 最終審査報告

- ・ 登録論文数：362 編

第 1 段審査通過論文数：287 編（+企画セッション（要旨審査のみ）2 編）

第 2 段審査通過論文数：283 編（不採択 1 編，辞退 3 編）

第 2 段審査以降論文数：281 編（不採択 1 編，辞退 1 編）

※海岸工学講演会での講演数：286（281+2（企画論文無）+3（通常号））

- ・ 第 2 段審査辞退論文内訳

合計 3 編（期日までに執筆不可能 2 編，PDF 登録ミス 1 編）

取り下げに際して，著者全員の自筆署名が入った文書の提出を求めた

(6/18 提出済み).

→辞退の理由は、本論文執筆にあたりデータや考察が十分にできなかったというもの。
この理由は、「本論文があり、それを要約したものを要旨として投稿する」という一般的な流れとは相容れない。

→投稿後の辞退について、要旨投稿時点で、結論は得られているはずであり、その後に、データや考察が不十分という理由で辞退するということは、ありえないこと。査読に労力を割いたり、講演枠を開けたりしているにも関わらず辞退されるのは問題。著者負担金も入ってこない。長期的には、査読費用を支払う仕組み等についても検討すべきではないか。

→このようなことが繰り返されないように委員会の外にも周知する必要がある。

(2) J-Stage に関する作業

- ・組版を廃止(H28 年度より)
- ・組版に要する時間が不要になったため、従来の B 判定、C 判定を復活
- ・組版業者(大應印刷)に論文フォーマットのチェックを依頼

著しくフォーマットの逸脱した原稿（著者負担組版行き原稿）：0 編

→PDF 提出 3 年目でフォーマットに問題のある原稿が減少

著者が対応可能な修正が必要な原稿：18 編

（著者順変更、題目変更、原稿サイズなど）

論文査読～J-Stage 掲載作業までの日程について、今年度の実績に基づき遂行
組版後の著者校正（確認）はなし

Author+から最終原稿 PDF をシステムから提出

→提出作業 2 年目であったためスムーズに作業できた

→全体的に問い合わせが減少。著者・査読者が慣れてきたこと、Web の FAQ が充実してきたことなどが原因ではないか。

(3) 論文集編集の現状・検討課題

- ・ 組版の廃止に伴う査読日程の見直し、問題点の確認
 - 最終原稿 PDF アップロード Author+ の運用 2 年目
 - 最終 PDF の様々なゆらぎ 減少
- ・ 英文論文（全文査読）の募集を継続（投稿数 13(18), 採択数 5(13)）（ ）は昨年
 - 投稿申し込みシステム→英語化
- ・ 海岸工学講演会の活性化 企画セッション
 - 企画セッションでは口頭発表のみの研究発表を募集(2 編採択)
 - 通常論文の質の維持と学際分野の強化
- ・ その他
 - 題目・著者変更ルールについての確認・周知
 - ◇ 問い合わせは昨年より減った

- ◇ 昨年から業者に PDF の題目と著者が登録情報と一致しているかどうかを確認してもらっており、かなり有効
- ・ 査読への対応
 - 査読報告書の書き方
 - ◇ 不採択を決める時の判断，理由提示の明確化
 - Web に記載
 - “主査の方が総括する際に、いずれが重要な修正意見やコメントであるかはつきり分かるように，副査の方は査読報告書にお示してください。”
- ・ 2次原稿査読基準の明確化
 - 何件か問題のある投稿あり
 - ◇ 著しく内容のレベルが低い
 - ◇ 2重投稿の嫌疑
- ・ 明らかにレベルが低い等，問題があると主査，cec が判断する論文は，1次審査の判断にかかわらず不採択
- ・ 本論文を投稿しないことについては従来通り認めず，厳しく対応する。
- ・ 査読意見対応のサンプルを提供
 - 著者による査読対応を明確化
- ・ 二重投稿等の指摘が増えている．どのような場合がアウトなのか，Q&A で例示
 - 次年度課題
 - （検討）全文審査の負担軽減と体裁チェックを含む質向上のため，編集小委員会委員（副査1）の数を増やす． → 編集委員数を 23 から 29 へ増員した
- ・ 【第2段審査 査読報告書登録締切 6/5】と【第2段審査 査読報告総括登録締切 6/12】の期間が短い（今期は講演会が10月開催のため，特に短い）
 - 本年度 6/5 の査読報告書登録締切が守られず，6/7 に主査報告依頼メール送信
 - 主査報告にしわ寄せ →次年度課題
- ・ 査読論文に対する査読コメントが対応していないケースが数件ある
 - 表形式で対応
- ・ 来年度の編集・出版形態 → 昨年からの大きな変更点は（6）のみ
 - (1) 二段階査読を維持（3月アブスト受付，11月出版）
 - (2) 電子査読を継続
 - (3) 今年度同様に英語論文を通常論文と同じプロセスで査読
 - (4) 現行の査読体制を継続(英文論文の査読者は限定)
 - (5) 企画セッションの応募は継続
 - (6) J-Stage: 従来の BIB ファイルを提出は不要
 - 投稿者の最終提出物は最終原稿 PDF のみ Author+よりアップ
 - (7) J-Stage はカラー化，紙ベースの冊子体は廃止→DVD を配布

(8) 海岸工学論文賞・奨励賞（各 3 編程度）を継続，受賞論文は
C E J に推薦

(9) 出版経費：組み版・印刷製本(350 万円/年)，

J-Stage アップロード(40 万円/年)

査読システム技術委託(約 50 万円/年)

来年度も，出版形態・スケジュールの大きな変更をしないことを確認

- ・ 著者負担金と論文集 DVD 価格
 - 著者負担金 35,000 円を予定（H28,27 は 36,000 円，H26 以前は 35,000 円）
 - 各論文投稿に対し，論文集 DVD を配布予定
 - 論文集 DVD のみの販売も予定：3,000 円程度著者負担金未払い者：H28 年度は未回収が 2 件（2017 年 9 月 28 日時点）
- ・ 講演会予算の推移について（田島幹事長）
 - 2016 年大阪大会は大学施設を会場としたため，例年に比べて会場費の支出が少なく，また展示広告による収入が多かった。
- ・ 2017 札幌開催講演会における論文割当可能数の検討
 - 会場・セッションごとの講演数の検討結果が説明され，了承された。
 - 企画セッションは 2 日目の第 4,5 セッションに決定

4. 海岸工学講演会企画セッションについて（加藤委員兼幹事）

- ・ 日時：平成 28 年 10 月 26 日（木）15：00～17：50
- ・ テーマ：流砂系の総合的な土砂管理と海岸保全
- ・ 趣旨：

山地・山麓部，扇状地，平野部，河口・海岸部等の領域で発生している土砂移動に関する問題に対して，砂防・ダム・河川・海岸の個別領域の問題として対策を行うだけでは解決できない場合に，各領域の個別の対策に留まらず，土砂が移動する場全体を流砂系という概念で捉えることにより，流砂系一貫として，土砂の生産の抑制，流出の調節等の必要な対策を講じ，解決を図る「総合的な土砂管理」が各地で取り組みが進められています。

本企画セッションでは，流砂系における土砂移動のモニタリング、総合的な土砂管理の計画や施策に関連する海岸での研究，取り組みを募集し，今後の海岸保全の考え方や技術開発の方向性について検討します。

- ・ オーガナイザー：加藤史訓（国土技術政策総合研究所），栗山善昭（港湾空港技術研究所）
- ・ 企画セッションの構成（前半：15:00-16:50）
 - 趣旨説明
 - 土砂管理のためのモニタリング・予測の技術・事例（海岸部を含むもの）

- ◇ 総合土砂管理を支えるモニタリング技術（筑波大 武若先生、企画・要旨）
- ◇ 漁業と協働した広域漂砂系の浅海域地形モニタリングー遠州灘での10年間の取り組みー（豊橋技科大 岡辺先生、企画・要旨）
- ◇ 気象・海象変化に伴うサロマ湖沿岸域の地形変化特性（寒地港湾技術研究センター 時沢様、企画・論文）
- ◇ 千里浜海岸周辺における汀線の中・長期的変動特性（金沢大 榎田先生、一般・論文）
- 土砂管理計画の事例（海岸部を含むもの）
 - ◇ 安倍川流砂系総合土砂管理計画（静岡河川事務所 栗山様、話題提供）
- 総合的な土砂管理のための海岸での技術・事例（養浜，サンドバイパスなど）
 - ◇ 福田浅羽海岸サンドバイパス事業による海浜回復の実態（元東大 波多野様、一般・論文）
 - ◇ 鳥取方式のサンドリサイクル工法（鳥取県 安本様、話題提供）

・ 企画セッションの構成（後半：17:00-17:50）

総合討論

パネラー：榎田先生、岡辺先生、佐藤先生、武若先生、山下先生（五十音順）

司会：栗山所長、加藤

①課題提起

②海岸侵食対策の実施フローのあり方

総合的な土砂管理の中での位置づけ、気候変動への対応など

③流砂系における土砂移動のモニタリング技術（観測、解析）

沿岸漂砂量、供給土砂量、土砂収支（粒径別）の推定精度の向上など
（地形、粒径、波浪、流れなどの個別モニタリング技術の向上など）

④総合的な土砂管理のための海岸での対策

サンドバイパス・養浜の効率化、環境影響の低減など

その他、議論の進展によっては、

新技術の適用、産官学連携、現地観測プロジェクトなど

新たな小委員会の立ち上げ（「漂砂環境の創造に向けて」の実践編）？

→論文3篇、一般からの変更などで全7篇

→総合討論の具体的な内容は今後、司会・パネラー等とつめていく

5. 海岸工学論文賞および同論文奨励賞について（田島幹事長）

- ・ 候補論文の著者に幹事長が含まれていたため、全文審査の基準の選定など選考結果に影響を与える判断については委員長が行い、幹事長は評点集計等の作業のみを担当した。
- ・ 従来通りの選考手続きで、候補論文が選考された旨の説明があり、選考方法について

了承された。

- ・ 海岸工学論文賞は 9 篇の審査対象論文から 3 編が選考され、承認された。
- ・ 海岸工学論文奨励賞は 5 編の審査対象論文から 3 編が選考され、承認された。

6. 第 64 回海岸工学講演会の準備状況について（渡部委員兼幹事）

実行委員会： 山下 [実行委員長] (北大), 渡部・猿渡 (北大), 宮武 (函館高専), 中島・木岡・大塚 (寒地土研)

後援： 北海道開発局, 北海道, 寒地港湾技術研究センター

日程： 2017 年 10 月 25 日 (水) ~27 日 (金)

会場： TKP 札幌駅カンファレンスセンター (札幌市北区北 7 条西 2 丁目)

懇親会会場： 京王プラザホテル (18:30~20:30)札幌市中央区北 5 条西 7 丁目 2-1

予算：札幌市会議助成 (58 万, 決定済み)

※発表形態の変更

・ 発表者のノート PC を使った発表を認める (VGA, HDMI ポート) 一方で, 会場には発表用のノート PC を用意する。

・ 上記はどちらも可とし, どちらかを推奨することはない。ただし, 自分の PC を使う場合はその接続時間は発表時間に含まれることを事前に知らせる。

→持ち込みを認めるのは, パワーポイントファイルの容量が増加傾向にあり, レンタルパソコンでは動画等の再生がうまくいかない事例が増えたため。ただし, 接続時間は発表時間を含み, 事前の接続確認を推奨する。

・ 特別講演会について（田島幹事長）

日時：2017 年 10 月 24 日 (火) 17:15~18:00

場所：北海道大学フロンティア応用科学研究棟 2F 鈴木章ホール (札幌市北 15 条西 8 丁目)

講演題目：Wave-Current-Sediment Interaction: The WCS Facility, Its Performance, and Some Results (大型振動流装置を用いた底質移動特性に関する研究)

講演者：Ole Secher Madsen (マサチューセッツ工科大学 名誉教授)

・ 前日シンポジウムについて（岡安委員長）

日時：2017 年 10 月 24 日 (火) 18:00~20:00

場所：北海道大学フロンティア応用科学研究棟 2F 鈴木章ホール (札幌市北 15 条西 8 丁目)

テーマ：陸からみた津波減災施設 —減災アセスメント小委員会中間報告—

・ 見学会について（渡辺委員兼幹事）

A コース：小樽港・石狩湾新港

B コース：千歳空港・苫小牧港コース

※両コースとも定員に達したため募集は締め切り

・ プログラム・DVDの準備状況

➤ プログラム(B3用紙),当日販売用論文集DVDの用の広告イメージが紹介された.

7. 第65回海岸工学講演会企画セッションについて(高橋小委員長)

テーマ:津波防災研究ポータルサイトの公開とその活用(仮題)

オーガナイザー:高橋・越村

8. 第65・66回海岸工学講演会の準備状況について

第65回(2018年)海岸工学講演会(鳥取)(太田委員兼幹事)

実行委員会:黒岩[実行委員長](鳥取大),太田・金(鳥取大)

後援:国交省中国地方整備局,鳥取県,鳥取市【予定】

日程:2018年11月14日(水)~16日(金)

会場:とりぎん文化会館(鳥取市)(予約済)

懇親会:(会場)ホテルニューオータニ鳥取(鳥取駅前,仮予約済)

(日時)2018年11月15日(木)18:30または19:00~

見学会(案):鳥取砂丘海岸,浦富海岸(サンドリサイクル)

1コースのみ,定員35~40名程度

予算:大会・会議開催助成金(とっとりコンベンションビューロー)

延べ宿泊者数 500~999人:100万円

1,000~2,000人:200万円

第65回(2018年)海岸工学講演会(鹿児島)(田島幹事長(柿沼委員兼幹事代理))

実行委員会:浅野(顧問),柿沼,齋田,長山(鹿児島大学)

日程:2019年10月23日(水)~25日(金)

会場:かごしま県民交流センター(鹿児島市)(2010年度海洋開発シンポジウムの会場)

懇親会,見学会,後援及び来賓:実行委員会で検討中

➤ 日程は会場の都合から変更不可

➤ 1日目と2-3日目で第1会場が変わる

➤ 提案をそのまま進めることで了承された.

9. 第53・54回水工学に関する夏期研修会(Bコース)について(荒木委員兼幹事)

第53回(2017年)水工学に関する夏期研修会

開催日:2017年8月31日(木)および9月1日(金)

会場:大阪大学吹田キャンパス,U2棟311,312講義室

テーマ:

Aコース(河川・水文):河川の維持管理と流域の保全

B コース (海岸・港湾) : 海岸・港湾における構造物の維持管理と海岸保全
実行委員 : 竹原 (近大), 入江, 荒木, 青木 (阪大)

- 「維持管理」を河川・海岸共通のテーマにした。ただし、単に構造物の維持管理にとどまらず、土砂管理や環境管理まで含めて設定した。
- 基礎的な内容の講義を2つ配置し、それらについては河川、海岸共通の講義とした。

参加者 :

A コース 117 名 (一般 104, 学生 13)

B コース 72 名 (一般 60, 学生 12)

テキスト追加購入 (A コース 7 冊, B コース 1 冊)

参加者へのアンケート結果が紹介された。

- 今後取り上げてほしいテーマとしては高潮に関するものが多かった
 - 実務者向けには維持管理問題の重要性を伝えるために、そのケーススタディ紹介は良い説明だったが、学生としては、理論のほうに重きを置いてほしかった
 - 講義スライドを動画含めて使用可能にしてほしい、社内研修等で利用したい
- ←復習に使うのは OK、使い回しは NG。著作物は売っている。PPT は参加者の特典 (自習用)、善意で始めたのがいつのまにか標準化してしまっている？あくまでボランティアベースで受講者に限定公開。
- 配布前提だと生煮えの結果を出せなくなるという弊害もある
- ←参加費を下げられないか？
- なかなか難しいのではないか
- E-learning 委員会で取り組んでいる事例を後ほど紹介したい。

第 54 回 (2018 年) 水工学に関する夏期研修会

主担当は水工学委員会

開催日 : 未定

会 場 : 山口県

テーマ : 未定

水工学委員会の担当 : 朝井孝二先生 (山口大学)

海岸工学委員会の担当 : 日向博文先生 (愛媛大学)

10. Coastal Engineering Journal について (渡部 CEJ 小委員長)

- ・ Impact Factor 2016 : 0.887 (昨年 0.703 から 26% 上昇)
- ・ 特集号について
 - 2016 March (10 編出版)
Coastal disasters by typhoon Haiyan 2013 (Y. Tajima ed.)
 - 2016 December (13 編出版)

The 5th anniversary of the 2011 Tohoku Earthquake Tsunami (T. Takahashi ed.)

➤ 2017 June (7 編出版)

Climate Impact on Coastal Engineering (N. Mori ed.)

➤ 2018 年 March 予定 (18 編の投稿 > Full paper 査読中)

Special Issue on Estuarine hydrodynamics and morphodynamics

(H. Tanaka, H. Chanson ed.)

➤ 2019 年 March 予定

Special Issue of SPH for Coastal and Ocean Engineering

(H. Gotoh, A. Khayyer ed.)

Abstracts Due: 1st December, 2017

Abstract Acceptance Notice: January, 2018

Full Papers Due: 1st May, 2018

Advance Online Publication: January, 2019

Publication: March, 2019

・ CEJ 出版社の変更について

➤ 7/12 T&F との交渉→バックナンバーをもし WSPC が売り続けても仕方ないことを契約書に明示することを了承→契約上最大の懸念が払拭

➤ 8/1 WSPC との契約解除と Taylor & Francis との契約について委員会メール審議

➤ 8/15～ 土木学会稟議

➤ 8/21 Taylor & Francis との契約締結

➤ 8/25 WSPC との契約解除の通告, 土木学会長名で購読者リスト, バックナンバーの速やかな引き継ぎを要求

➤ 8/31 T&F から WSPC へ引き継ぎ情報の要求

➤ 9/7 WSPC が CEJ 購読者へ新雑誌への購読の引き継ぎ案内 (CEJ の scope に ocean を加え新たに新雑誌を出版する. 新雑誌へスイッチすれば, もれなく過去の CEJ バックナンバーを全て見れるようにするとの内容)

➤ 9/8 T&F 担当者から WSPC 担当者へ電話→Management と meeting を調整中, 回答できない→T&F から再度メールで抗議

➤ 9/11 WSPC 担当者から, Management が街を離れているから帰ったら話し合うとの返信

➤ 9/12 T&F アジア統括部長から WSPC Managing director へメール

➤ 9/19 T&F 担当者から, いつ management が戻り, 議論されるのか再度確認メール

➤ 購読者リスト・バックナンバーについて引き続き WSPC と協議する

←気候変動の特集号はすでに発刊しているが, 査読が継続しているものがある.

査読を通過した場合に, Web 上だけでも, 特集号に並べて表示することはできないか

→出版社変更後であればフレキシブルに対応できるのではないか
←大学や企業で契約している雑誌の購読契約はどうか？
→契約を変更する必要がある。
←年間契約のタイミングは限られているので、早めに購読契約の変更について周知した方がよい
→本来、購読者リストが引き継がれれば、T&F から周知するところであるが、引き継ぎがなされていない。CECOM ではアナウンス済み、Coastal List へのアナウンスも行う方向で検討する。
←バックナンバーが譲渡されない場合に T&F が全て作り直すということだが、著作権上の問題は無いのか？
→著作権は共同所有しており、問題ない
→T&F との契約では土木学会員はフリーでアクセスできることになっている
←出版社変更で協議中ということだが、査読システム等は問題なく引き継がれるのか？
→査読システムは Editorial Manager という外部サーバーを使っており、ログインする出版社が変わるだけなので問題なく移行できる。

11. 研究小委員会の活動について

・ 広報・出版小委員会（川崎小委員長）

- 書籍の紹介（No. 13）を間もなく掲載予定
- 討議集について

昨年度までは、質問はメールで専用アドレスに送信、委員会で質問をとりまとめ、その後、著者に連絡し、回答を集めていた。このやり方では 2 度の回収作業があり非効率である。今年度からは、質問は直接著者にメールで連絡するように変更したい。→了承

←討議者の氏名/所属は必要？

→これまでは記載しているので、従来通り記載する。

←討議集の扱いについては何年も課題として積み残されている。そろそろ決断すべきではないか。考えられる選択肢は以下の 3 つ程度。

- ・ 討議集をもっと充実させる
- ・ 正誤表だけ載せる
- ・ 廃止

←予算があるならシステム改良して、省力化して存続させる手もある

←討議集の扱いはメモ程度。オーソライズするのは手間がかかり、メリットの少ない作業を将来世代に引き継ぐべきではない。思い切って廃止してはどうか

←討論自体は、討議論文通常号等に出すことでオーソライズされた形で可能。

→正誤表については J-stage に機能がある
→上記 3 つの選択肢と今回の議論を勘案しつつ広報・出版小委員会から今後の方針案を複数提示し、次回委員会において方針を決定する。

➤ E-learning 委員会で作成したサンプルの紹介

◇ 動画と確認テスト

◇ 著作権（ネットラーニングが確認）、CPD 1 単位

◇ 11 月から試験的に視聴可能になる予定

◇ カメラ 3 台で撮影、編集込みで、1 講座、90 万程度

→講座を一から開くのではなく、水工学に関する夏期研修会などを活用して、教材化することを考えている

←実際の参加者は有償であるが、公開後はどうするのか？

→土木学会会員のメリットとして、まずは会員限定で視聴可能にすることを検討している。有償・無償についてはこれからの議論。

←海岸工学委員会にバックがあれば、研修は低価格にできる。バランスが重要

←毎年見るとメリットがあるように繰り返し見るようなものにしたほうが良い（研究者倫理教育のイメージ）

→今回の試行結果を見ながら今後の方針を引き続き議論する。

・ 沿岸域研究連携推進小委員会（重松小委員長）

以下の活動状況について報告があった。

第 1 回：2017 年 6 月 3 日（土） 15:00～17:00 参加者 12 名

第 2 回：2017 年 7 月 29 日（土） 15:00～17:30 参加者 14 名

海岸工学データベースに基づいた各海域の研究履歴を記した個表の作成

研究キーワード（研究手法・計算手法・計測手法）の整理

沿環連への協働作業の呼びかけ

・ 津波作用に関する研究レビューおよび活用研究小委員会（高橋小委員長）

活動報告 WG に分かれて活動。取りまとめの時期となっており、各 WG に副査を追加

WG 主査：原田賢治、今井健太郎、鈴木高二朗、松山昌史、水谷法美

WG 副査：奥村与志弘、嶋原良典、岡田清宏、濱口耕平、有川太郎

ポータルサイトのプロトタイプの紹介（あいまい検索、ディレクトリ検索などの機能紹介）

ポータルサイトは来年の 5 月 1 日までには公開予定

ポータルサイトのお披露目を兼ねて 2018 年企画セッションを開催予定

ポータルサイトの構築は、防災科研との共同研究として実施

波動モデル研究小委員会（中山副小委員長）

研究集会「海洋・海岸における波動の解析モデルの応用」を開催予定

日時：2017年11月 または 12月の金・土の二日間

場所：九州大学応用力学研究所 W601 号室

図書出版の企画：専門書（教科書 or 参考書）の概要を検討中

減災アセスメント小委員会（岡安委員長）

委員に北野委員を追加

徳島県阿南市で行われた現地視察と意見交換会について報告がなされた。

海岸工学講演会前日シンポジウム「陸からみた津波減災施設」を開催予定

地域研究活性化（富田小委員長）

青木顧問を顧問として迎えた

瀬戸内海、関西、東海、北陸、九州の5つのWGの活動について、各地域の研究交流会の実施状況について報告があった。

海岸工学講演会の前日シンポジウム開催を検討中

水理模型実験における地盤材料の取扱方法に関する研究小委員会（小竹副小委員長）

小委員長の変更（水谷顧問→荒木委員）

メンバー勉強会開催

河川流砂実験の相似則について日本工営の伊藤隆郭様を招待し、講演会を開催したほか、メンバーの勉強会開催についての報告があった。

レビューWG、事象明確化WG、実験WGに分かれ活動中。

実験WGでは港研報告をベースに2-3機関で再現実験を行うことを計画している。

沿岸域の気候変動影響評価・適応検討に関する小委員会（武若小委員長）

→本年度新規立ち上げ、CECOMでアナウンスし、メンバーを募集したところ10名の応募があり、委員会活動への関心の高さを感じた。

→本年度海岸工学講演会期間内に開催する会議で小委員会活動をスタートさせる。

→旅費の工面を検討中

12. その他

・土木学会会長特別委員会レジリエンス確保に関する技術検討委員会について（岡安委員長、森委員）

委員会の活動内容について紹介された。

・ APAC 2017 について（田島幹事長）

現地実行委員会の対応が不十分であったため、日本の海岸工学委員会で査読を引き受けることとした。来年度以降については学会期間中に開催される会議で議論したい。

・ 第 8 回アジア土木技術国際会議（CECAR8, 2019）におけるセッション企画について（田島幹事長）

海岸工学委員会から 1 セッション、幹事長から応募

・ 予算について：平成 29 年度は前年度の海岸工学講演会のプラス収支が大きかったことから例年よりも収入が増えた。一方で見込まれる支出は例年通りであるため、余剰分（繰越不可）を有効に活用するための議論が行われた。災害調査（カリブ海ハリケーン・メキシコ地震・津波）、津波小委員会で作成中の津波防災研究ポータルサイトの機能拡充等の提案がなされた。具体的なプロポーザルについては、2 週間程度以内に具体的な見積もりを幹事長に提出し、10 月の委員会の場で審議することが了承された。

←災害派遣、高潮・洪水（イルマ・マリア）行って大丈夫？メキシコの地震・津波の調査は？

→メキシコ自治大がすでに行っている

←査読システムの効率化・省力化に寄与する機能があれば、その改良に充ててはどうか？

→今の査読システムはかなり安定しているので、下手に変えない方が良い

→予算の用途については、海岸工学委員会全体に関わるものと、各小委員会に関わるもの両方あって良い。

→プロポーザルは事前に具体的なものを提出するようにお願いしたい

・ 災害派遣について

←災害派遣について、学会や委員会としてどのように取り組むのか？

→土木学会として災害派遣のあり方を整理中である。例えば保険をどうするのかといった細かいことも議論している。